

研究の概要

20 22 年 7 月 8 日

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

| | |
|---------------------------------|--|
| 研究課題名： | 精液所見不良症例のICSIでは前核形成遅延が起こる |
| 代表研究者 (所属・氏名)： | 医局 中岡義晴 |
| 研究の目的： | 精液所見不良の原因は、精索動脈瘤や酸化ストレスなど様々な理由が挙げられる。そのような精子を用いた顕微授精では、受精率の低下、流産率の増加などが報告されている。しかし、所見不良の精子を用いた胚の初期発生について、経時的観察の報告は少ない。そこでタイムラプス観察装置を用いて、精液所見不良症例における初期胚発生を後方視的に観察した。 |
| 調査データ該当期間： | 20 21 年 1 月 1 日 ~ 20 21 年 12 月 31 日 |
| 研究の方法 (使用する試料/情報等)： | 2021年1月から12月までに採卵し、顕微授精を実施した71周期749個を対象とした。原精液所見が総精子濃度 0.1×10^6 /ml未満群(以下A群)、 $0.1-15.0 \times 10^6$ /ml群(以下B群)と分類した。両群の妻年齢、受精率、Day5胚盤胞率、タイムラプスを用いて観察開始から第一卵割終了(tStart→1CL)時間(分)を比較した。さらに、観察開始から第2極体放出(tStart→PB2)、極体放出から前核出現(tPB2→PNa)、前核出現から消失(tPNa→PNf)ならびに前核消失から第一卵割終了(tPNf→1CL)をそれぞれ分けて比較した。 |
| 個人情報の取り扱い： | 個人が特定できないように連結可能匿名化を行い、個人情報を保護しています。 |
| 本研究の資金源 (利益相反)： | なし |
| お問い合わせ先 ：代表電話 ：担当者(部門・氏名) | 06-6534-8824 生殖技術部門 林智菜実 |
| 備考 | |